

研究業績一覧

業績、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 Biotechnology in Agriculture and Forestry 47. Transgenic Crops II	共著	2001年	Springer-Verlag	(目的)種々の作物の遺伝子組換え体の方法、その特性についての総説が集めてある 編者：Y.P.S.Bajaj 著者：57名 (担当部分のタイトル)「Transgenic Sweet Potato (Ipomoea batatas L.Lam)」 (担当部分の概要)サツマイモのアグロバクテリウムによる遺伝子導入法について述べた。 全344頁 (pp.183-204) 担当部分の共著者：大谷基泰・島田多喜子 分担部分：抽出不可能。
2 Biotechnology in Agriculture and Forestry 48. Transgenic Crops III	共著	2001年	Springer-Verlag	(目的)種々の観賞用植物や薬用植物の遺伝子組換え体の方法、その特性についての総説が集めている。 編者：Y.P.S.Bajaj 著者：78名 (担当部分のタイトル)「Transgenic Ornamental Ipomoea」 (担当部分の概要)花の美しいイポメア属植物の遺伝子導入法と形質について述べた。 全379頁 (pp.209-220) 担当部分の共著者：大谷基泰・島田多喜子・三位正洋 分担部分：抽出不可能。
3 Transgenic Plants and Crops	共著	2002年	Marcel Dekker, Inc.	(目的)種々の作物の遺伝子組換え体の方法、その特性についての総説が集めてある 編者：G. Khachatourians 著者：138名 (担当部分のタイトル)「Transgenic Sweet Potato with Agronomically Important Genes」 (担当部分の概要)サツマイモのアグロバクテリウムによる遺伝子導入法について述べるとともに、遺伝子組換えを利用した農業上有用な遺伝子を用いた形質転換サツマイモについても述べた。 全379頁 (pp.699-716) 担当部分の共著者：大谷基泰・島田多喜子 分担部分：抽出不可能。
4 食品の生体調節機能に関する研究	主著	2004年	農林統計協会	(目的)食品の生体調節機能に関する研究の成果を収集網羅し取りまとめた。 編者：農林水産省農林水産技術会議事務局 著者：56人 (担当部分のタイトル)「バイオテクノロジーを活用した機能性成分生産作物の開発に関する研究動向ーサツマイモー」 全363頁 (pp.357-359)
5. Biotechnology in Agriculture and Forestry 59. Transgenic Crops IV	共著	2007年	Springer	(目的)種々の作物の遺伝子組換え体の作出方法やその特性についての総説が集めてある 編者：T. Nagata他 著者：55名 (担当部分のタイトル)「Sweet Potato」

				(担当部分の概要)サツマイモのバイオテクノロジーに関して組織培養から遺伝子導入まで述べた。 全476頁(pp.337-353) 担当部分の共著者:島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分:抽出不可能。
(学術論文)				
1 Mesophyll protoplast culture of sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> L.).	共著		Plant Science 53 (2)	サツマイモの葉肉細胞からの効率的なプロトプラスト単離方法を確立し、培養に成功した。(pp.157-160) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子・新関宏夫 担当部分:共同研究につき抽出不可能
2 日本のコムギ品種の薬培養における胚状体形成へのポテト培地の有効性	共著		日本育種学雑誌 38 (2)	日本の代表的なコムギ品種の薬培養を行いポテト培地の有効性を明らかにした。(pp.212-222) 共著者:島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分:共同研究につき抽出不可能
3 サツマイモ培養由来プロトプラストの培養	共著		植物組織培養 5(1)	サツマイモ培養細胞からプロトプラストを単離し培養に成功した。(pp.26-28) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分:共同研究につき抽出不可能
4 <i>Ipomoea trichocarpa</i> の葉カルスからの植物体再分化	共著		日本育種学雑誌 38 (2)	サツマイモの近縁野生種である <i>I. trichocarpa</i> の葉片を培養し、植物体の再生に成功した。(pp.205-211) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分:共同研究につき抽出不可能
5 コムギ胚状体からの緑色植物再分化能の品種間差異	共著		日本育種学雑誌39 (2)	日本の代表的なコムギ品種の薬培養を行い花粉からの胚状体からの緑色植物再分化能に関して品種間差異が大きいことを明らかにした。(pp.187-194) 共著者:島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分:共同研究につき抽出不可能
6 Effects of Fusarium mycotoxins on the growth of shoots and roots at germination in some Japanese wheat cultivars.	共著		Cereal Research Communications 18	コムギ赤かび病菌が産生するかび毒に対する赤かび抵抗性品種および感受性品種の反応を調査した。(pp.229-232) 共著者:島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分:共同研究につき抽出不可能
7 Somatic embryogenesis and plant regeneration from <i>Cyclamen persicum</i> Mill. leaf cultures.	共著		植物組織培養 8(2)	シクラメンの葉を培養し胚状体の再生およびクローン植物の増殖に成功した。(pp.121-123) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分:共同研究につき抽出不可能
8 Transformation of sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.) plants by <i>Agrobacterium rhizogenes</i> .	共著		Plant Science 94(1/2)	バクテリア <i>Agrobacterium rhizogenes</i> を介したサツマイモの形質転換に成功した。方法と形質転換体の特性を述べた。(pp.151-159) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分:共同研究につき抽出不可能。
9 High frequency of pollen embryo formation in <i>Triticum aestivum</i> L. on maltose containing medium.	共著		Cereal Research Communications 21(1)	コムギ薬培養において培地にマルトースを用いることによって効率が飛躍的に向上した。(pp.11-15) 共著者: <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分:共同研究につき抽出不可能。

10 Effect of six promoter-intron combination on transient expression of the reporter gene in einkorn, emmer and common wheat cultured cells by particle bombardment.	共著		Plant Science 103(1)	コムギの遺伝子導入の条件を特に導入遺伝子のプロモーターによる影響を調査した。 (pp.161-166) 共著者：宅見薫雄・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
11 Effect of synthetic medium on microspore-derived embryo formation of tetraploid wheat species.	共著		Cereal Research Communications 23 (4)	二粒コムギの葯培養を行い胚状体形成への合成培地の影響を調査した。 (pp.345-350) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
12 Pollen embryo formation and plant regeneration from cultured anthers of tetraploid wheat.	共著		J.Genetics and Breeding 48	二粒コムギの葯培養を行い胚状体形成への合成培地の影響を調査した。 (pp.103-106) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
13 Efficient embryogenic callus formation in sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.).	共著		Breeding Science 46(3)	サツマイモの胚状体を形成するカルスを誘導する条件を確立した。(pp.257-260) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
14 Fertile transgenic plants of <i>Ipomoea trichocarpa</i> Ell. induced by different strains of <i>Agrobacterium rhizogenes</i> .	共著		Plant Science 116(1)	サツマイモ近縁野生種の <i>trichocarpa</i> の形質転換を <i>Agrobacterium rhizogenes</i> によって成功した。(pp.169-175) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
15 High frequency plant regeneration from leaf calli in sweet potato cv.Chugoku 25.	共著		Plant Tissue Culture Letters 13(1)	サツマイモ品種中国25号の葉から効率的に植物体を再生させる条件を見つけた。 (pp.23-27) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
16 Gametoclonal variation in anther culture-derived rice plants: Mutation breeding of new elite lines showing short culm and early heading.	共著		J.Genetics and Breeding 50	イネ葯培養により得られた再分化植物の変異を調査し、その中から短稈・早生の有用な系統を選抜した。(pp.269-275) 共著者：山岸真澄・2名・大谷基泰・他8名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
17 Distorted segregation of RFLP markers in regenerated plants derived anther culture of F1 hybrid of rice.	共著		Genes and Genetic Systems 71(1)	イネF1の葯培養を行い葯培養能力と遺伝子マーカーとの関連を調査した。 (pp.37-41) 共著者：山岸真澄・3名・大谷基泰・1名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
18 A comparison of somaclonal variation in rice plants derived and not derived from protoplasts.	共著		Plant Breeding 115(5)	イネプロトプラスト由来植物とカルス培養由来植物の変異を比較した。 (pp.289-294) 共著者：山岸真澄・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
19 Plant regeneration from leaf explants of <i>Primura cuneifolia</i> var.Hakusanensis, "Hakusan-kozakura".	共著		Plant Biotechnology 14(1)	ハクサンコザクラの葉片からの再分化条件を検討しクローン増殖法を確立した。 (pp.47-50) 共著者：島田多喜子・松下晶子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
20 Co-integration, co-expression and co-segregation of an unlinked selectable marker gene and <i>NtFAD3</i> gene in transgenic rice plants.	共著		Genes and Genetic Systems 73(4)	パーティクルガンでイネに2種の遺伝子を導入し両遺伝子の組み込み、発現、子孫への伝達を調査した。(pp.219-226) 共著者：脇田陽一・大谷基泰・他2名

nts produced by particle bombardment.				担当部分：共同研究につき抽出不可能。
21 Chromosomal regions controlling anther culturability in rice (<i>Oryza sativa</i> L.).	共著		Euphytica 103	イネ薬培養能力に関与する染色体領域を同定した。(pp.227-231) 共著者：山岸真澄・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
22 Embryogenic callus formation from immature embryo of Japanese morning glory (<i>Pharbitis nil</i> Choisy).	共著		Plant Biotechnology 15(3)	アサガオは組織培養が困難な植物である。未熟胚を用いて植物体を再生できるカルスを得るのに成功した。(pp.127-130) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
23 Transgenic plant production from embryogenic callus of sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam) using <i>Agrobacterium tumefaciens</i> .	共著		Plant Biotechnology 15(1)	<i>Agrobacterium tumefaciens</i> を介したサツマイモの再現性の高い、効率的な形質転換法を確立した。(pp.11-16) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
24 イネの薬培養において培養期間の長短とカルスの大きさが植物体再分化率に及ぼす影響	共著		北陸作物学会報 33	イネ薬培養で最も効率よく緑色植物が得られる種々の条件を検討した。(pp.13-16) 共著者：小澤隆司・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
25 数品種の日本稲および印度稲の幼苗の種子根における脂肪酸組成	共著		北陸作物学会報 33	イネ幼苗の種子根の脂肪酸組成を測定し日本稲と印度稲の違いを明らかにした。(pp.27-31) 共著者：島田多喜子・脇田陽一・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
26 Transgenic plant regeneration through silicon carbide whisker-mediated transformation of rice.	共著		Breeding Science 49(1)	シリコンカーバイトウイスキーを使って簡単に安価に形質転換イネを育成する方法を明らかにした。(pp.21-26) 共著者：松下准城・大谷基泰・他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
27 イネ薬培養におけるカルス誘導培地と再分化培地の検討.	共著		日本作物学会紀事68(1)	イネの薬培養における効率的なカルス誘導培地と再分化培地を提示した。(pp.151-154) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・生田陽子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
28 水稻F1薬培養で得た倍加半数体(A2世代)の穂系統内分離	共著		北陸作物学会報34	イネ薬培養によって得られた倍加半数体での分離を調査した。(pp.79-81) 共著者：小牧正子・大谷基泰・他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
29 イネ薬培養において液体培地によるカルス誘導が植物体再分化に及ぼす影響	共著		北陸作物学会報34	イネ薬培養培地に液体培地を用いることによる影響について調査した。(pp.82-85) 共著者：小澤隆司・小牧正子・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
30 Modification of fatty acid composition in rice transformation with a tobacco microsomal ω -3 fatty acid desaturase gene (<i>NtFAD3</i>).	共著		Plant Biotechnology 17(1)	脂肪酸不飽和化酵素遺伝子をイネに導入し脂肪酸組成を改変し、低温に対する耐性を向上させた。(pp.43-48) 共著者：島田多喜子・脇田陽一・大谷基泰・他1名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
31 Improved response of anther culture in an indica rice cultivar of Thailand.	共著		Plant Production Science 3(3)	タイの重要なインディカ品種の薬培養条件を改良した。(pp.254-256) 共著者：P.Slipichitt・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。

32 タイのインディカ種イネの 薬培養	共著	北陸作物学会報35	タイのインディカイネ2種と日本稲とを 薬培養し比較した。(pp.44-46) 共著者：小澤隆司・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
33 Genetic transformation of sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.) by <i>Agrobacterium tumefaciens</i> .	共著	Acta Horticulture 560	<i>Agrobacterium tumefaciens</i> を介したサツマイモの再現性の高い、効率的な形質転換法を確立し、得られた形質転換サツマイモの解析を行った。(pp.193-196) 共著者：大谷基泰・脇田陽一・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
34. In vitro propagation and recovery of a habitat of <i>Habenaria radiata</i> (Orchidaceae).	共著	Acta Horticulture 560	絶滅危惧種に指定されている富山県のサギソウの試験管内増殖条件を検討した。(pp.481-484) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・森井昌俊・神戸敏成 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
35. A tobacco microsomal ω -3 fatty acid desaturase gene increases the linolenic acid contents in transgenic sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i>).	共著	Plant Cell Reports 20 (3)	タバコ由来の脂肪酸不飽和化酵素遺伝子をサツマイモに組み込みサツマイモの脂肪酸組成を改変した。(pp.244-249) 共著者：脇田陽一・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
36. Absence of amylose in sweet potato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.) following the introduction of granule-bound starch synthase I cDNA.	共著	Plant Cell Reports 20 (7)	サツマイモから単離したアミロース合成関連遺伝子のcDNAをサツマイモに組み込み、アミロースが合成されなくなった形質転換サツマイモの作出に成功した。 共著者：木村貴志・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。(pp.663-666)
37. Production of transgenic japonica rice (<i>Oryza sativa</i>) cultivar, Taichung 65, by the <i>Agrobacterium</i> -mediated method.	共著	Plant Biotechnology 18 (4)	遺伝学や育種学の研究材料として重要な‘台中65号’の <i>Agrobacterium</i> による形質転換方法を開発した。 共著者：屋良朝紀・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。(pp.305-310)
38. Physicochemical properties of amylose-free starch from transgenic sweet potato.	共著	Carbohydrate Polymer s 49 (3)	遺伝子組換えによって作出したアミロースフリーサツマイモが生産するデンプンについて生化学的な分析を行った。 共著者：野田孝弘・木村貴志・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。(pp.253-260)
39. Production of herbicide-resistant sweetpotato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.) plants by <i>Agrobacterium tumefaciens</i> -mediated transformation.	共著	Breeding Science 53 (2)	除草剤抵抗性遺伝子を導入した形質転換サツマイモを作出してその特性を解析した。 共著者：大谷基泰・脇田陽一・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。(pp.145-148)
40. Plant regeneration from internode explants of <i>Euphorbia tirucalli</i> .	共著	Plant Biotechnology 21 (5)	<i>Euphorbia tirucalli</i> の茎切片からの植物体再分化系を開発した。 共著者：内田英信・中谷内修・大谷基泰・他6名 担当部分：共同研究につき抽出不可能(pp.397-399)
41. 遺伝子組換えによる糯性デンプンを有するサツマイモの作	共著	北陸作物学会報39	遺伝子組換えによる糯性デンプンを産生する形質転換サツマイモの作出について

出				述べた。(pp44-46) 共著者：大谷基泰・濱田達郎・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
42. Double haploid plant production of transgenic rice (<i>Oryza sativa</i> L.) using anther culture.	共著		Plant Biotechnology 22 (2)	形質転換イネを薬培養することによって効率よく導入遺伝子がホモ化した個体を作出出来る方法を開発した。 共著者：大谷基泰・脇田陽一・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp141-143)
43. Use of single-leaf cutting in the study of the expression of starch synthesis and modification genes in sweetpotato.	共著		J. Plant Biotechnology 7 (2)	一葉挿し法を用いることによってサツマイモの発根や塊根形成時における澱粉性合成関連遺伝子の発現を解析した。 共著者：Sun-Hyung Kim・濱田達郎・大谷基泰・古賀博則・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp123-127)
44. Cloning and characterization of sweetpotato MADS-box gene (<i>IbAGL17</i>) isolated from tuberos root.	共著		Plant Biotechnology 22 (3)	サツマイモのMADS-box遺伝子IbAGL17の単離解析をおこなった。 共著者：Sun-Hyung Kim・濱田達郎・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp217-220)
45. Production of mouse adiponectin, an anti-diabetic protein, in transgenic sweet potato plants.	共著		J. Plant Physiology 162	メタボリックシンドロームの治療薬として期待されるアディポネクチンを生産するサツマイモを遺伝子組換えによって育成した。 共著者：Thomas Berberich・Toshiyuki Takagi・Atsushi Miyazaki・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp1169-1176)
46. Isolation and characterization of MADS box genes possibly related to root development in sweetpotato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.)	共著		J. Plant Biology 48 (4)	サツマイモの根の形成に関与していると考えられる3種類のMADS Box遺伝子を単離してその発現様式を解析した。 共著者：Sun-Hyung Kim・濱田達郎・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp387-393)
47. Cloning and characterization of sweetpotato isoamylase gene (<i>IbIsaI</i>) isolated from tuberos root.	共著		Breeding Science 55	サツマイモの澱粉枝切り酵素isoamylase遺伝子の単離と解析をおこなった。 共著者：Sun-Hyung Kim・濱田達郎・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp453-458)
48. Improvement of environmental stress tolerance of sweet potato by introduction of gene for spermidine synthase.	共著		Plant Biotechnology 23 (1)	スペルミジン合成酵素遺伝子を導入することによって環境ストレス耐性が向上した形質転換サツマイモを育成した。 共著者：春日部佳久・Lixion He・渡部百合子・大谷基泰・島田多喜子・橘荘司 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp75-83)
49. Increase of amylose content of sweetpotato starch by RNA interference of the starch branching enzyme II gene (<i>IbSBEII</i>).	共著		Plant Biotechnology 23 (1)	サツマイモ澱粉枝作り酵素IbSBEIIをRNAiによって不活化した形質転換サツマイモの澱粉はアミロース含量が通常の2倍に増加することを見いだした。 共著者：島田多喜子・大谷基泰・濱田達郎・Sun-Hyung Kim 担当部分：共同研究につき抽出不可能

50. Transgenic sweetpotato with amylose-free starch.	共著		Acta Horticulture 703	(pp85-90) サツマイモのデンプン粒結合型デンプン合成酵素遺伝子GBSSIをRNAiによって不活化した形質転換サツマイモのデンプンはアミロースフリーになることを見いだした。 共著者：島田多喜子・大谷基泰・濱田達朗・Sun-Hyung Kim 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp141-144)
51. Induction of mutations in sweetpotato plants by heavy-ion beam irradiation.	共著		Acta Horticulture 703	イオンビーム照射によるサツマイモの変異誘発を調査した。皮色、塊根など農業形質に関連する突然変異体が得られた。 共著者：大谷基泰・H. Saito、阿部知子、島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp171-173)
52. Physicochemical properties of amylose-free and high-amylose starches from transgenic sweetpotatoes modified by RNA interference.	共著		Carbohydrate Polymers 69 (2)	サツマイモのデンプン粒結合型デンプン合成酵素遺伝子GBSSIおよび澱粉枝作り酵素遺伝子IbsBEIIのRNA干渉によって得たアミロースフリー澱粉およびハイアミロース澱粉の物理化学的な特性について調査をおこなった。 共著者：北原兼文・濱砂圭吾・K. Nozuma・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp233-240)
53. Inhibition of the gene expression for granule-bound starch synthase I by RNA interference in sweet potato plants.	共著		Plant Cell Reports 26 (10)	サツマイモのデンプン粒結合型デンプン合成酵素遺伝子GBSSIのRNA干渉によってアミロースフリー澱粉を有する形質転換サツマイモを効率よく作出した。 共著者：大谷基泰・他7名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp1801-1807)
54. Plant regeneration from leaf explants of auricula cultivars (<i>Primula x pubescens</i> Jacq.).	共著		Plant Biotechnology 24 (2)	稀少な古典園芸植物であるオーリキュラの葉片からの植物体再分化条件を明らかにした。 共著者：瀧平路明・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp425-427)
55. Bioactive beads-mediated transformation of rice with large DNA fragments containing <i>Aegilops tauschii</i> genes.	共著		Plant Cell Reports 28 (5)	イネの新しい形質転換法を開発して、 <i>Aegilops tauschii</i> が持つ製パン性の遺伝子を持つ形質転換イネを作出した。 共著者：和田直樹・他5名・大谷基泰・他5名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp759-768)
56. The effects of Puroindoline b on the ultrastructure of endosperm cells and physicochemical properties of transgenic rice plant.	共著		<i>Journal of Cereal Science</i> 51 (2)	<i>Aegilops tauschii</i> が持つ製パン性の遺伝子を持つ形質転換イネの子実の物理化学的な特性を分析した。 共著者：和田直樹・他4名・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp182-188)
57. Inhibition of the expression of the starch synthase I gene leads to lower pasting	共著		Plant Cell Reports 29 (6)	サツマイモのデンプン合成酵素遺伝子SSIJのRNA干渉によって低温糊化性デンプンを有する形質転換サツマイモの作出に初

temperature in sweetpotato starch				めて成功した。 共著者：高畑康文・田中勝・ <u>大谷基泰</u> ・他5名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp535-543)
58. Starch Properties of Transgenic Sweetpotato Plants Modified by RNA Interference of the Starch Synthase II Gene.	共著		Journal of Applied Glycoscience Vol. 58 (2011), No. 3 pp.85-90	デンプン合成酵素遺伝子SSIIのRNA干渉によって作出した形質転換サツマイモの低温糊化性デンプンの特性について解析した。 共著者：北原兼文・高畑康文・ <u>大谷基泰</u> ・他5名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp85-90)
59. Transgenic sweet potato expressing thionin from barley gives resistance to black rot disease caused by Ceratocystis fimbriata in leaves and storage roots	共著		Plant Cell Reports Vol. 31 (6) (2012)	オオムギのチオニン遺伝子を導入することによって黒斑病抵抗性サツマイモの作出に成功した。 共著者：Nobuhiko Muramoto・Tomoko Tanaka・Takashi Shimamura・Norihiro Mitsukawa・Etsuko Hori・Katsunori Koda・ <u>Motoyasu Otani</u> 他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能 (pp987-997)
(その他)				
1 Morphology, meiosis and in vitro propagation of barley-wheat hybrids.	共著	1987年	Barley Genetics V (Proc.5th Int.Barley Genetic.Symposium)	コムギとオオムギの雑種の形態、染色体の動向、増殖について述べた。(pp.343-350) 共著者：島田多喜子・木庭卓人・ <u>大谷基泰</u> ・新関宏夫 担当部分：共同研究につき抽出不可能
2 Chromosomal and morphological variation in plants regenerated from calli of immature embryos and inflorescences of a barley-wheat hybrid.	共著	1988年	Proc.7th International Wheat Genetics Symposium	コムギとオオムギの雑種の培養細胞から生じた再分化植物の染色体数および形態の変異について述べた。(pp.757-762) 共著者：木庭卓人・島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> ・新関宏夫 担当部分：共同研究につき抽出不可能
3 <i>Ipomoea trichocarpa</i> Eil.の葉カルスからの植物体再分化へのABAの効果	共著	1988年	北陸作物学会報 23	サツマイモ近縁野生種の <i>I. trichocarpa</i> の葉由来カルスからの植物体再分化にABAが効果的であった。(pp.45-46) 共著者： <u>大谷基泰</u> ・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
4 コムギ薬培養における花粉由来胚状体形成の品種間差異.	共著	1988年	北陸作物学会報 23	日本の実用品種十数品種の薬培養を行い花粉からの胚状体形成の品種間差異を調査した。(pp.49-50) 共著者：島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
5 コムギ花粉由来胚状体からの植物体再生.	共著	1988年	北陸作物学会報 23	コムギ花粉からの胚状体からの緑色植物、アルビノ植物の再生の品種間差異を調査した。(pp.51-52) 共著者：島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分：共同研究につき抽出不可能。

6 薬培養より得られたイネの突然変異体.	共 著	1989年3月	石川県農業短期大学 農業資源研究所研究 報告 1	コシヒカリを薬培養して得られた植物体 に種々の突然変異体が生じ、その中には農 業上有用な系統を選んだ。(pp.1-7) 共著者：新関宏夫・島田多喜子・木庭卓人 ・ <u>大谷基泰</u> 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
7 不定胚を利用したシクラメン の大量増殖.	共 著	1990年	誠文堂新光社	シクラメンの大量増殖法として葉カルス からの不定胚誘導法を記述した。 (pp.30-31) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
8 Gameteclonal variation in and rogenic doubled haploid lines of a common wheat cultivar, Norin 12.	共 著	1991年	Bull.RIAR Ishikawa Agr.Coll. 2	農林12号の薬培養由来植物の変異を調査 した。(pp.6-12) 共著者：木庭卓人・島田多喜子・ <u>大谷基泰</u> 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
9 イネプロトプラストの効率的 な培養系	共 著	1992年	北陸作物学会報 27	イネ品種能登ひかりを用いて、効率的な培 養法、培地を確立した。(pp.88-89) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
10 Genetic analysis of rice mut ants obtained by anther culture.	共著	1992年	Proc.Asia Pacific Con gress of Agricultural Biotechnology	イネ薬培養より得られた突然変異体の遺 伝分析をした。(pp.447-450) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
11 Genetic factors of the anther culture response in Japanese wi nter wheat cultivars.	共 著	1993年3月	Bull.RIAR Ishikawa Agr.Coll. 3	日本のコムギ6品種とそれらの雑種の薬培 養能力を調査し、薬培養能力が遺伝的要因 であることを明らかにした。(pp.1-7) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・畑中博英 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
12 Diallel analysis of the perfor mances on pollen embryo formati on and plant regenerat ion in anther culture of comm on wheat, Triticum aestivum L.	共 著	1993年3月	Bull.RIAR Ishikawa Agr.Coll. 3	コムギ4品種を用いて薬培養能力の遺伝 的な特性をダイアレル交配により分析し た。(pp.8-13) 共著者：木庭卓人・島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
13 Effect of various potato extr acts in Potato-2 medium on polle n embryogenesis of wheat (Tritic um aestivum).	共 著	1993年3月	Bull.RIAR Ishikawa Agr.Coll. 3	ジャガイモの種々の部分の抽出液のコム ギ薬培養に対する効果を調査した。 (pp.14-18) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・畑中博英 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
14 An efficient anther culture method for obtaining a higher fr equency of pollen embryos in <i>Tr iticum aestivum</i> L.	共 著	1993年3月	Bull.RIAR Ishikawa Agr.Coll. 3	効率的なコムギ薬培養のための培地、容器 等を検討した。(pp.19-25) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
15 Transformation of sweet pot ato (<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam.) and <i>Ipomoea trichocarpa</i> Ell. b y <i>Agrobacterium rhizogenes</i> .	共著	1994年	Proc. 7th Int.Congress of SABRAO	サツマイモとサツマイモ近縁野生種の形 質転換について述べた。(pp.447-457) 共著者：大谷基泰・三位正洋・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
16 Anther culture of Japanese s pring wheat 'Haruhikari' and char acterization of doubled haploid pl ants.	共著	1995年	Bull.RIAR.Ishikawa A gr.Coll.4	日本の春小麦品種の薬培養と倍加半数体 の特性を調査した。(pp.17-22) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・木庭卓人 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
17 Comparison of gemeteclonal and somaclonal variations in a Japanese wheat cultivar 'Haruhika	共著	1995年	Bull.RIAR.Ishikawa A gr.Coll.4	日本春コムギの薬培養とカルス培養から 再生した植物の変異を比較した。(pp.23-3 0)

ri'.				共著者：村井耕二・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
18 Distorted segregation of RFLP markers in anther culture-derived rice plants.	共著	1996年	Proc. 2nd Asian Crop Science Conference, FUKUI.	イネの薬培養能力を支配する染色体領域をRFLPマーカーで位置づけた。 (pp.768-769) 共著者：山岸真澄・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
19 Effect of auxins on embryogenic callus formation from shoot apices of sweet potato cv.Kokei 14.	共著	1996年	Proc.1st Chinese-Japanese Symp. of sweet potato and potato. Beijing	再分化可能なサツマイモ培養細胞を効率的に誘導する方法を発表した。 (pp.365-368) 共著者：大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
20 Application of plant biotechnology for breeding of Ipomoea species	単著	1996年12月	石川県農業短期大学研究報告 第26号	サツマイモ属植物の育種における植物バイオテクノロジーの応用についてまとめた。(pp.15-43)
21 Genetic analysis of dwarf mutation induced by anther culture in a Japanese wheat cultivar 'Haruhikari'.	共著	1997年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll.5	コムギ薬培養により得られた短稈変異体の遺伝分析を行った。(pp.1-8) 共著者：村井耕二・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
22 Some effects of temperature, light and storage on the seed germination of <i>Primula cuneifolia</i> var <i>Hakusanensis</i> , 'Hakusan-kozakura'.	共著	1997年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll.5	ハクサンコザクラの種子発芽に及ぼす種々の条件を検討した。(pp.33-38) 共著者：島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
23 Micropropagation of <i>Furtilaria camtschaticensis</i> (L.) Ker-Gawl., 'Kuroyuri'.	共著	1997年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll.5	クロユリの試験管内増殖の条件を検討した。(pp.39-44) 共著者：島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
24 The rice Act1 promoter gave high activity of transient <i>gusA</i> expression in callus, immature embryos and pollen embryos of common wheat and its relatives following particle bombardment.	共著	1997年	Wheat Information Service 84	イネアクチンプロモーターはカルスや花粉胚状体等で強く遺伝子を発現させることを明らかにした。(pp.25-32) 共著者：宅見薫雄・大谷基泰・島田多喜子 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
25 Seed germination and plant regeneration from leaf explants of some Chinese <i>Primula</i> species.	共著	1997年	Conservation Biology in Plants common to Japan and China. Hiroshima Univ.	中国で採集した数種のプリムラ植物の種子発芽と試験管内増殖について報告。(pp.15-32) 共著者：島田多喜子・大谷基泰・他4名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
26 Developmental morphology of seeds and micropropagation of <i>Orchis aristata</i> Fischer (Orchidaceae) in axenic culture.	共著	1997年	Annals of the Tsukuba Botanical Garden16	ハクサンチドリ of the 種子発芽の形態と無菌播種による試験管内増殖。(pp.41-48) 共著者：近藤勝彦・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
27. 水稻育種におけるF1薬培養の利用・・過去8年間のとりまとめ	共著	1998年	石川県農業総合研究センター研究報告21	石川県農業総合研究センターとの共同研究をまとめた。(pp.11-18) 共著者：小牧正子・大谷基泰・他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
28 Somatic embryogenesis and plant regeneration from leaf explants of some wild <i>Primula</i> species in China.	共著	1999年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll. 6	中国で採集した数種のプリムラの葉から不定胚、不定芽を再生する条件を検討した。(pp.13-18) 共著者：大谷基泰・他7名・ 担当部分：共同研究につき抽出不可能。

29 Transient assay of high expression promoters in wheat cultured cells HY-1 by particle bombardment.	共著	1999年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll. 6	コムギ培養細胞を用いてコムギ細胞で高発現するプロモーターを検索した。 (pp.19-22) 共著者：濱田達朗・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
30 Effects of plasmid DNA- purification methods on the efficiency of bombardment- mediated gene transfer.	共著	1999年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll. 6	パーティクルガンで遺伝子導入する際のプラスミドの調整と遺伝子導入効率を調査した。 (pp.23-26) 共著者：脇田陽一・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
31 Development of new rice varieties by using F1 anther culture in Ishikawa Prefecture.	共著	1999年	Bull.RIAR.Ishikawa Agr.Coll. 6	イネ新品種開発のため行っているF1葯培養について現在までの成果をまとめた。 (pp.27-33) 共著者：小澤隆司・大谷基泰・他2名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
32 遺伝子組換え食品に関するアンケートの結果	共著	2000年2月	農業と科学 2000年2	学園祭の来訪者一般に遺伝子組換え食品の意識調査を行った結果を報告。(pp.5-9) 共著者：島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
33 白山別山油阪の頭付近のハクサンチドリの開花結実調査および無菌播種による増殖の試み	共著	2000年	石川県白山自然保護センター研究報告26	白山別山のハクサンチドリの開花結実調査を5年間にわたり調査した結果と無菌播種による増殖法について述べた。 (pp.13-17) 共著者：大谷基泰・島田多喜子・野上達也 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
34 Fatty acid composition in transgenic rice plants by transformation with plastid omega-3 fatty acid desaturase gene.	共著	2000年	Bull.Ishikawa Agr.Coll. 30	葉緑体膜局在脂肪酸不飽和化酵素遺伝子をイネに導入し、リノレン酸含量を増加した。 (pp.9-15) 共著者：脇田陽一・大谷基泰・他3名 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
35 RNA干渉によるモチ・サツマイモの育成	共著	2003年7月	農業および園芸 70(7)	遺伝子組換えによるモチサツマイモの育成過程、その性質について解説した。 (pp.762-765) 共著者：島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
36 モチサツマイモの育成 2007年 2月27日現在	共著	2003年9月	農業と科学2003(9)	遺伝子組換えによって得られたモチ・サツマイモについて一般的に解説した。 (pp.9-11) 共著者：島田多喜子・大谷基泰 担当部分：共同研究につき抽出不可能。
37 Analysis of Starch Biosynthesis in Novel Sweetpotatoes with Starches Pasting at Low Temperature.	共著	2011年	J. Appl Glycosic Vol 58(4)	RNAi法によりSSII遺伝子の発現を抑制した形質転換サツマイモのデンプンを解析した。 (pp.167-170) 共著者：高畑康文・田中勝・片山健二・大谷基泰・他5名 担当部分：共同研究につき抽出不可能
38. バイオテクノロジーを利用した野生植物の増殖.	単著	2012年2月	いしかわ自然史. 55号	植物バイオテクを利用した野生植物の増殖について解説した。(pp.2)
著書	5編			
学術論文	59編			
その他	38編			

--	--	--	--	--